

<レポート>

第1回水環境市民フォーラムを終えて

平成9年来、水環境学会年会に全環研の併設集會が開催されてきたが、平成16年の札幌における水環境学会年会では、同日同会場で開催される水環境市民フォーラムに協力することになった。

この企画は、昨年制定された札幌市の「水環境計画」を受けて、関連するテーマの基調講演と、市民団体の役割分担の事例発表・経験交流を行うもので、札幌市の主催、水環境学会の共催、全環研の協力で実施された。全環研の立場で数回の企画会議に参画し、当日は2名が要員として運営に参加した。以下に概要と感想を記す。

日 時：平成16年3月19日(金) 13:30~16:45
会 場：札幌コンベンションセンター小ホール

白石区東札幌6条1丁目1-1

基調講演：住民参加による水辺の自然林再生法について(北海道工業大学岡村俊邦教授)

事例発表：身近な水環境保全活動の事例について(4例)

●基調講演概要

持続可能な環境を維持するためには、新しい概念の“近自然工学”の手法を採用する必要がある。

1991年から開発を開始した自然林の再生法である“生態学的混播法”は、水環境の健全化や生態系の活性化が図られ、地球環境の維持にとって効果的である。本方法では評価と改良のため、導入時から継続的に追跡調査することし、この13年間に実施されたうち、約100カ所10万本についてのデータが得られている。

また、住民や児童が参加しやすい方法で、多くの住民活動や学校教育に取り入れられている。テレビで報道された小学校の実践例を紹介する。

●事例発表概要

1. クリーン鴨々川清掃運動報告

(鴨々川を清流にする会)

豊平川の分流で、創成川の上流にあたる鴨々川の美化・浄化のため年2回清掃運動を実施している。約300名が参加し、ごみや底泥の除去は成功しているが、水量管理や錦鯉の放流・撤去など今

後の検討課題も残されている。

2. 生き物がいる水辺(西岡の自然を語る会)

札幌市南部にある旧水源地を中心とした西岡公園は、住宅地に隣接しながらも多様な生態を保っている水辺と森林が一体となった自然の宝庫である。生態系の保全を優先し、種々の公園利用計画を止めてもらった。また生物の専門家の協力を得て各種の調査を実施し「生き物調査報告種」を発行した。

3. ニホンザリガニの棲める沢を探そう(平岡どんぐりの森)

札幌市南東部の平岡公園や東部緑地で、親子自然観測会を実施している。住宅と隣接するわずかな緑地の水辺に、絶滅危惧種のニホンザリガニやエゾサンショウウオなどが棲息していた。

道路工事による影響が危惧されたので、市と交渉を重ね、環境に配慮した工法に変更してもらった。工事の期間中は工事関係者の協力も得ながら、2回にわたる“ザリガニレスキュー”を行った。

4. 屯田兵のふるさとが未来へ贈る琴似発寒川

(西区連合町内会連絡協議会)コーディネーター/小林三樹教授(藤女子大学大学院教授)

札幌市西区を貫流する琴似発寒川に、連合町内会あげて清掃美化、稚魚放流、親水行事、水辺環境維持計画にとさまざまな参画している。

これらは河川管理者と緊密な連携のもとに実施されていて、両者の熱意と信頼関係あってこそ成功している。さらに、屋根なし博物館(エコミュージアム)の完成をめざしていく。

*

なお、最後に全発表者が登壇し、パネルディスカッションが行われた。

規模も活動も多様で内容の濃密な報告を、映像を駆使し分かりやすく工夫した好企画だった。このフォーラムが回を重ねることにより、市民団体のネットワークが構築され、環境保全の教育・普及・実践に実力が発揮されると期待された。

(北海道環境科学研究センター 斉藤修)